

「3.11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.1 2011年4月3日

「3.11 いわて教会ネットワーク」発足のご案内とお誘い

3.11は私たちにとって決して忘れられない日となりました。観測史上最大の地震、いくつもの町を破壊した巨大津波、いまだ深刻な状況にある原発、そして今後しばらく続くであろう経済的な打撃と復興への長い道のり。内陸の教会もいくらかの被害はありましたが、沿岸にある主の教会は地震と津波の大打撃を受けており、今なお多くの兄弟姉妹たち、そして地域の方々が喪失と困難の中に置かれています。

このような状況に対して、県外はもとより海外からも多くの支援の手が伸ばされており、その多くが「教会を拠点に支援活動をしたい」という願いを持っており、また感謝なことに、このことを機会に岩手や沿岸における福音宣教の働きに長く関わりを持って行きたいという願いを持っている団体も少なくありません。

そのような中で私たちは、教団教派を超え、支援する教会・団体と支援を受ける教会とが情報を共有し、互いの働きを理解し合うことで、より効果的な支援や補い合う関係が築けるのではないと考え、「3.11いわて教会ネットワーク」を立ち上げました。

以下は、「3.11いわて教会ネットワーク」の基本的な考え方です。

1. 「3.11いわて」は、情報の共有・提供によって諸教会や各支援団体の支援活動に貢献します。
2. 「3.11いわて」は、外部からの支援活動の窓口となりコーディネートの役割を果たします。
3. 「3.11いわて」は、義援金や資金の管理を行いません。義援金の送金等のお問い合わせはネットワークに参加している各教会、団体に直接お問い合わせください。
4. 「3.11いわて」は、諸教会、各支援団体の信仰を尊重します。
5. 「3.11いわて」は、被災教会が地域の中にあって支援教会となっていけるように祈り求めます。
6. 「3.11いわて」は、支援の核となる教会がない地域に主の教会が生み出され、建て上げられていくことを願い求めます。

具体的にはインターネット上に開設した専用サイトでの情報共有が基本となります。ネットワークへの参加もお電話やファックス、メールの他、サイト上でも可能です。またサイトにユーザー登録することで情報を掲載したり、カレンダーに予定を書き込むなど、より便利にお使いいただけます。

詳細は「3.11いわて教会ネットワーク」専用サイト <http://www.311.ichurch.jp> をご覧ください。

ぜひ祈りを合わせ、互いにもてる情報を共有しあい、励まし合って、この震災の長い復興の道のりを歩んでまいりましょう。そして、やがていつの日か、支援の核となりうる教会のない地域にも、主の教会が生み出されていくことを願い求めてまいりましょう。

2011年3月27日

3.11いわて教会ネットワーク発起人

近藤愛哉(盛岡聖書バプテスト教会牧師・コーディネーター)

佐々木真輝(北上聖書バプテスト教会牧師・事務局)

若井和生(水沢聖書バプテスト教会牧師)

大塚史明(盛岡みなみ教会牧師)

被災地支援報告

近藤愛哉(盛岡聖書バプテスト教会牧師)

岩手県大槌町。市街地は壊滅状態、一面の瓦礫の海。町長以下 35 名の町職員が死亡、行方不明により町機能が麻痺した町。車道もライフラインも絶たれた、高台の孤立した集落に徒歩にて踏みいる。そこで出会った方々と話す。情報が入らない。世間は私たちを見捨てたのではないか。「いや、前日テレビにてまさにこの地区が取り上げられていましたよ！」私達は忘れられていなかったんだ……。7軒の家に80人弱が避難して住んでいるという。「大変ですね……。怖かったですよ……。」「……。」「今何が欲しいですか？」消毒液……。マスク……。薬……。服……。バナナ！でもいいよ。言ってみただけだから。誰かと話すことが出来ただけでも嬉しい。来てくれてありがとう、と何度も何度も頭を下げる人々に別れを告げた昨日。

今日、千葉、シンガポール、台湾、NZ から昨晚の急なリクエストにも関わらず、出発地にて物資を集めて陸路、車で駆けつけてくれたチームと共に、再びこの集落を訪ねる。夕闇の中で到着。驚いて出てきた方々に昨日リクエストのあった物資を渡す。もちろん、バナナも！……。まさか、本当に来てくれるとは……。申し訳ないけど信じてなかった……。ありがとう……。信じられない……。ありがとう……。

盛岡から現地までの往復により、2日間の移動距離500km超。岩手の広さ、盛岡から沿岸被災地までの距離が恨めしく思われる。この距離が、救援に対する思いをも遠くするのか。いや、悲劇的な出来事の中でも、出会うことの出来た方々がいた。昨日聞いた誰かと出会うことができただけでも嬉しい……。という言葉は何度も思い出す。届けるのは物資だけではない。津波の時の恐怖、親しい方々を失った悲しみ、今後に対する不安……。はちきれんばかりになっているその思いにまず耳を傾ける……。これも、今だからこそ仕えることの出来る働き……。届けるのは愛。

誰か！

(2011年3月23日記)

被災地の祈り

若井和生(水沢聖書バプテスト教会牧師)

今回の大地震による津波で、岩手県の県北にある久慈市も大きな被害を受けました。この久慈市でかつて宣教された方に、タマシ・アレンという婦人宣教師がいます。アレン宣教師が久慈での宣教を志すきっかけとなったのは、1933年に三陸を襲った大津波でした。

1933年3月3日午前2時31分、宮城県金華山沖の海底でマグニチュード8.1の巨大地震が発生。その30分後に押し寄せた大津波によって三陸の町々は壊滅的な被害を受けました。死者・行方不明者3064人という大惨事だったそうです。

当時、盛岡で宣教されていたタマシ・アレン宣教師は、その知らせを聞いて深く心を痛められました。その後、実際に三陸の町々を訪ねて歩き、食糧を配り、被災した人々と触れ合いました。そして、次第に三陸地方に対する重荷が与えられ、自分に委ねられた宣教地は久慈であると確信するに至りました。

その後のアレン宣教師の生涯のすべては、久慈と久慈の人々のためにささげられました。アレン宣教師はその地に教会を建て、病院や幼稚園、学校、さらに農場まで開き、地域の回復のために貢献されたのです。

今、私は祈っています。第二のアレン宣教師が起こされますように。今回の津波で太平洋沿岸地域の受けた被害は甚大なものです。復興までは長い年月がかかるでしょう。今はいのち守られたことを喜んで一人一人も、やがて深い喪失感に苛まされることでしょう。恐ろしい津波を目撃してしまった子どもたちの心には、どんなにか深い傷が残されたことでしょうか。

被災地には教会が必要です。大津波によって大きく痛めつけられた地域と人々を福音によって慰め、癒す教会が必要です。そして、そのための働き人が必要です。全国のキリストにある皆様、是非、お祈り下さい。主がこの地に働き人を起こして下さるように！ 教会が築かれるように！ そして、この地が福音によって慰められますように！